

2023年FIA-F4選手権シリーズ
HFDP参加選手レポート
第2大会（第3戦／第4戦） 参戦レポート

6月3日（土）～4日（日）、鈴鹿サーキット（三重県）で2023年FIA-F4選手権シリーズ第2大会（第3戦、第4戦）が開催されました。HFDP（ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト）からは#5 三井優介（2002年04月21日生まれ。21歳）、#6 野村勇斗（2005年11月12日生まれ。17歳）、#7 森山冬星（2003年1月10日生まれ。20歳）の3人が参戦しました。

第4戦でHFDPが表彰台独占

■公式予選（20分間）：天候/晴れ 路面/ドライ



金曜日まで台風の影響で大荒れだった鈴鹿サーキットの天候は、3日（土）朝には回復し、午前8時から23台が出走して公式予選セッションA組には、木曜日に行われたトレーニング走行で総合トップタイムを記録した#7 森山が出走しました。まだコース上にはウェットパッチが一部に残っておりウェット宣言が出されるコンディションでしたが、#7 森山はドライタイヤをウォームアップするとタイムアタックに入り、トップに立ちました。#7 森山はタイムアタックを続け、2番手以下を突き放しました。セッションは赤旗で一旦中断されましたが、残り5分で再開されると#7 森山はさらにタイムを縮め、セッションを終えました。

予定より4分遅れ、午前8時34分に23台が出走する予選セッションB組が始まり、#5 三井、#6 野村が出走しました。#5 三井は2周にわたってタイヤをウォームアップするとタイムアタックに入ってトップに立ち、#6 野村もこれに続きました。さらに2台はタイムを縮めていきました。

セッションが残り6分を切ったところで赤旗が提示され、全車ピットへ戻り走行を中断した時点で#5 三井はトップ、#6 野村は2番手につけており、セカンドベストタイムでも同じ順で1番手、2番手につけていました。

セッションは残り4分で再開されましたが#5 三井、#6 野村ともコースインを見送りタイヤを温存する作戦を選びました。結局残りのセッションでも#5 三井、#6 野村のタイムを上回る選手は現れませんでした。

この結果、A組で#7 森山が記録したタイムを上回った#5 三井がポールポジションを獲得、2番手に#7 森山、3番手に#6 野村が続いて第3戦のスターティンググリッドが決定しました。セカンドベストタイムで決まる第4戦のスターティンググリッドも同じ順となりました。



第3戦 公式予選結果

予選B組1位 #5 三井 優介 2分07秒929 (1番手スタート)

予選A組1位 #7 森山 冬星 2分08秒371 (2番手スタート)

予選B組2位 #6 野村 勇斗 2分08秒023 (3番手スタート)

第4戦 公式予選結果 (タイムアタックのセカンドタイム順に決定)

予選B組1位 #5 三井 優介 2分07秒935 (1番手スタート)

予選A組1位 #7 森山 冬星 2分08秒372 (2番手スタート)

予選B組2位 #6 野村 勇斗 2分08秒162 (3番手スタート)

■第3戦 決勝レース（11周。時間超過により10周へ減算）：天候/晴れ 路面/ドライ



太陽が照りつけコースが完全ドライコンディションとなった午後1時55分、第3戦決勝レースのためコースインが始まりました。ところがダミーグリッドへのコースイン中、1台の車両がコースの広範囲にわたってオイルを撒いてしまったため、スタートが延期されました。

オイル処理を待つ、予定より20分遅れて午後2時25分にレースはセーフティーカー（SC）先導によりスタートし、4周目から本来のレースが始まりました。このリスタートの加速で、先頭の#5三井、#7森山はポジションを守って1コーナーに進入しましたが、3番手だった#6野村は1コーナー手前で後方から#36小林利徠斗にインを奪われ、ポジションを1つ落とすことになりました。

その直後、コース上でアクシデントが発生したため再びSCがレースに介入、次の周にリスタートが行われることになりましたが、スタート直前に隊列走行の後方で接触事故が発生、リスタートは見送られて三たびSCがコースに入り隊列走行が始まりました。



レースは9周目から再開されることになりましたが、すでに最長レース時間である30分が迫っており、レースは10周フィニッシュ時点で終わりそうな状況となっていました。リスタートに向けて隊列走行の先頭にいた#5三井は、オイルで汚れた最終コーナーでのハードブレーキングを避けるとともに、レース時間を見越し11周目に入らないようペースを落として最終コーナー立ち上がりまでリスタートでの加速を遅らせました。



リスタートが切られ、#5三井は先頭のポジションを守って10周目の周回に入りましたが、2番手の#7森山は1コーナー進入で後続の#36小林にインを奪われ、勢い余ってアウト側へオーバーランして5番手にまで順位を下げてしまいました。#5三井は小林の追撃を振り切って10周目を走りきり、トップでチェッカーフラッグを受けました。3番手には#6野村が続き、一旦5番手まで順位を落とした#7森山は130Rのアウト側から前を走る#88荒川麟をかわし、ポジションを4番手に戻してレースを終えました。

【FIA-F4選手権シリーズ第3戦・レース結果】

#5 三井 優介 決勝1位 (31分02秒376 ベストタイム 2分10秒968)
#6 野村 勇斗 決勝3位 (31分03秒361 ベストタイム 2分11秒005)
#7 森山 冬星 決勝4位 (31分04秒048 ベストタイム 2分12秒224)

■第4戦 決勝レース (11周) :天候/晴れ 路面/ドライ

初夏を思わせる日差しの中、第4戦のスタートが4日(日)午前8時20分に切られました。ポールポジションの#5 三井はうまく加速、危なげなく先頭のまま1コーナーへ飛び込みました。その後方、2番手の#7 森山、#6 野村も後方から好スタートを決めた#88 荒川を押さえ2番手、3番手のポジションを守ってレースを始めました。



トップの#5 三井はオープニングラップのうちに2番手#7 森山との間隔を1秒以上に拡げ、ポジションを確立。その後方では#7 森山と#6 野村が2番手を激しく争いましたが順位を入れ替えるには至らず、そのまま4番手の88 荒川を引き離して、HFDPの1-2-3体制が固まりました。



3周目、コース上でアクシデントが発生し、処理のためSCがレースに介入、隊列走行に入りました。SCによる隊列走行は7周終了時まで続き、8周目にレースが再開されることになりました。隊列を率いる先頭の#5 三井は、今回は130R立ち上がりで加速を始め、ポジションを守ってホームストレートを駆け抜けました。その後方では#6 野村が#7 森山に迫りましたが、順位は変わらず、この間に#5 三井は先頭のポジションを安泰

に持ち込みました。また、3番手の#7 森山の後方では4番手の小林と5番手荒川が格闘したため遅れ、3番手#7 との間隔は3秒に拡がって、HFDPの1-2-3体制は盤石となりレースのフィニッシュを迎えました。

この結果、HFDPの3人が表彰台を独占することとなりました。第3戦、第4戦で連勝した#5 三井はシリーズポイントランキングで2番手へ浮上し、#6 野村は3番手、#7 森山は4番手へそれぞれポジションを上げました。



【FIA-F4選手権シリーズ第4戦・レース結果】

#5 三井 優介 決勝1位 (28分36秒205 ベストタイム 2分08秒312)

#6 森山 勇斗 決勝2位 (28分37秒303 ベストタイム 2分08秒338)

#7 森山 冬星 決勝3位 (28分38秒289 ベストタイム 2分08秒599)



■2023FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2023 シーズン第4戦終了時点)

2番手 #5 三井 優介 50点

3番手 #6 野村 勇斗 48点

4番手 #7 森山 冬星 42点

(1位25点、2位18点、3位15点、4位12点、5位10点、6位8点、7位6点、8位4点、9位2点、10位1点)

■2023FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2023 シーズン第4戦終了時点)

2番手 HFDP 70点

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント：#5 HFDP RACING 三井 優介



前大会の翌日は、もう落ち込むだけ落ち込みました。そこから、自分がやるべきことを明確にして、フィジカルトレーニングであったり動画の研究であったり、できることを一つ一つしっかりやって、自信を取り戻して今大会に臨みました。予選は、結果としてはうまくいったと思うんですけど、自分としてはプッシュしきれなかったように感じます。第1戦、第2戦とダメだったので今回勝たなくてはいけないと意識

しましたし、鈴鹿は予選で前に出なければ勝てないということは去年の経験から感じていたので、予選で何がなんでも1位を獲ろうと意識しすぎたかもしれません。第3戦は、オイルだったりアクシデントだったり色々あって周回を重ねられませんでした。それをうまくいかけて、1位を守り続けて生き残るレースを終えることができたかなと思います。リスタートに向けては、オイル処理の関係で最終コーナー周辺の路面が悪くてホイールロックしがちだったので、それを避けたかったし、30分のタイムレースになることがわかっていて、危ない路面で周回を増やしたくないなとも思い、SCの時間を引っぱりたかったからペースを決めました。第4戦は、速さと強さを見せつけることができたかなと思っています。第3戦と第4戦、違う形で連勝できたことを嬉しく思います。今日の表彰台からの眺めは最高でした。両脇にはチームメイトがいて、チームとして一番良い結果になったんだなと思いました。表彰台の下にいる関係者の皆さんの顔を見ても、みんな笑顔だったので、この結果で多少は恩返しできたかなと感じました。

●ドライバーズコメント：#6 HFDP RACING 野村 勇斗



週末、台風の影響で雨絡みから始まったんですが、地元の鈴鹿ということもあって絶対2連勝するぞと思っていました。でも振り返ってみると、ちょっとスピードが足りませんでした。次戦に向けて、しっかりと何が足らなかったのかとかを、振り返っていききたいと思います。

予選は、精一杯アタックしてミスもなく行けたのに、それで足らなかったのが悔しいです。でも三井選手にあれだけ迫ることができたのはポジティブなことでもあると思います。ただあとちょっとで抜けなかったのはやっぱり悔しいです。あともう1回鈴鹿のレースがあるので、そのときは絶対やり返してやろうと思います。

第3戦は1周、2周くらいしかレースできませんでした。リスタート明けにバトル

する機会があったんですけど、1回目は自分の加速がちょっと鈍ってしまって、前から離されてしまいました。リスタートの加速に向けた反応自体は悪くなかったんですけど、130R出口のオイル処理の跡を踏んで、膨ら



んでしまったんです。それで前と離れて後の選手に追いつかれてしまいました。こういうミスは絶対繰り返さないようにしようと思いました。だから第4戦ではリスタートするとき絶対うまくやろうと考えて、うまく決められました。昨日の失敗を直して行けたので良かったと思います。HFDPで表彰台を独占できて良かったんですが、次は真ん中に立ちたいです。

●ドライバーズコメント：#7 HFDP RACING 森山 冬星



週末の調子は良くて、速さは絶対にあったんですが、第3戦のレースで自分からちょっと流れを悪くしてしまいました。どうもここ最近流れが悪いんです。前大会のように、自分自身でペナルティもらってしまったりとか、自分で流れを悪くしている面があるように感じます。第3戦ではSC明けのリスタートがうまくいかず順位を落としてしまいとても悔しい思い

をしました。第4戦はもちろん優勝を狙っていました。ここで勝って流れを変えようと集中して、第3戦で失敗したSC明けのリスタートも含めて、レースに集中してしっかりと走りました。その結果、リスタートはうまく決めることができましたし、そのほかの面でもうまくいったことがある一方、うまくいかず悪かったこともあるので、そこは改善していかないとはいけません。経験値の差とは言いたくないんですけど、第3戦ではダウンフォースが抜けて、前との距離が離れてしまった面があります。そこがまずは課題かなとは感じてます。

